

智頭視察(2019/05/24~26) レポート

目的

今回の智頭視察の目的は以下の二つです。一つは智頭の魅力を多くの人に広めるためには、百聞は一見に如かずということで、とにかく自分の目で見るのが重要だと考えたので、現地で智頭の良さを感じ、智頭の魅力をしっかりと伝えられるようになることです。もう一つは、吉永ゼミで行っている留学生交流プロジェクトとのコラボレーション企画の事前調査で、当日どのようなプランを立てるかの情報収集を行いました。この企画は明日のさんの民泊に留学生を迎え、智頭を満喫してもらおうというもので、国内にとどまらず、世界中の人に智頭の魅力を伝えることを目的にしています(2019年度後期に実施予定)。

活動内容と感想

[楽之さん]

二晩宿泊。初日の夜には役場の方やタルマーリーの格さん、楽之さんのオーナーの方など、智頭の方々がたくさんいらっしゃいました。到着して早々にお会いできると思っておらず、寝ぼけたままで申し訳ありませんでした。木で包まれている建物の中は暖かく、やわらかい雰囲気でした。ドミトリールームもすべて木が使われていて、ベッドは寝心地がよかったです。ゲストハウスに宿泊するのは初めてで少し不安がありましたが、共用のシャワールームや洗面所はとてもきれいで、ベッドにもカーテンがついていたので、安心して快適に過ごせました。改めて写真を見返すと、あの木の香りを思い出します。もう一度行きたいです。



[智頭宿、石谷家]

25日の午前中、智頭観光ガイドの福本さんに智頭宿を案内していただきました。まっすぐ続く長い一本道や、木と瓦の家が立ち並ぶ様子は、日本ならではの素晴らしい景色でした。杉玉もたくさん見かけました。梶屋さんでは日本酒の飲み比べもさせていただき、飲みやすくおいしいお酒を楽しむことができました。

石谷家住宅は、とても広くて圧倒されました。建物の中から天井を見上げると、大きくて太い木が何本も通っていて、すごい技術だと思いました。部屋に続いている柱や壁にも様々な種類の木が使われており、用途に合わせて使い分ける先人たちの知恵に感服しました。少し傾いた床や、外の景色が見られるような窓の位置、工夫を凝らした欄間など、他の場所で

は見られない細かいところまで知ることができ、本当に楽しかったです。福本さんもおっしゃっていましたが、建物の中をここまで観覧できる歴史的建造物は珍しいです。この場所は、日本人だけでなく外国の方も喜ぶと思います。



[板井原集落]

板井原集落では古民家を改装したカフェ「歩とり」さんにて昼食を取りました。料理は素材本来の味がしていてとても体に優しい味がしました。お水も山からの湧き水を使っているようで、水道水とは比べ物にならないほど美味しく味わえました。集落の周りの風景は山・川・畑・家のみで智頭町の中心からもかなり離れていました。更に冬には雪が多く降るそうで、現在集落にはほとんど住んでいる人がいないのもやむを得ないと感じました。

意外だったことが、朋子さんのお話によると杉はたくさん生えているけどむしろ都会よりも花粉症の症状が出づらいということです。自分でも調べてみると、「都会はホコリが多く、そのホコリと花粉が合わさって発症する」、「アスファルトだと地面に落ちた花粉が舞い上がりやすいが、土の地面だと舞い上がりにくく発症しづらい」といったいくつかの情報が出てきました。これはとても興味深いことで、より深く調べてデータを出せば、観光にも繋がられるのではないかと考えました。



[豊乗寺]

豊乗寺は真言宗系統のお寺であり、境内に生えている大きな榎が印象的で、日本史の教科書で見たことある曼荼羅や国宝となっている古画がありました。お寺とその周辺には88尊もの地蔵があり、それを巡るルートも案内されていました。



[タルマーリー]

タルマーリーさんはまず建物が印象的で、幼稚園の建物がそのまま酒造・パン工房・カフェの複合施設になっていました。カフェで飲み物を頂いてから、オーナーの格さんにお話を伺いました。タルマーリーさんのパン・ビールは自分が思っていた以上に自然・地域と強く結びついていました。スーパーで買える全国展開しているような商品はほぼ使わず、小麦粉も自らの手で製粉しておられました。発酵に使う菌は周りの空気に強く影響を受け、例えば農薬の散布があると菌も悪くなってしまうそうです。そのような環境で、まさに利益を考えない経営を続けておられるのは本当に衝撃的でした。

タルマーリーさんは何人かの従業員を雇っておられましたが、彼らの休みを決まった数作り、更に従業員の住むところも用意されており、仕事の後は製造しているビール飲み放題、と様々な待遇があり、人間らしい働き方ができていると感じました。それは格さんの、ロボットのように過酷に働かなければならなかったパン屋での経験があったからこそあるものだと感じました。また、格さんの経営に対する考え方は、私たちが今ゼミで学んでいるティール組織にとっても似ていると考えました。ティール組織は、資本主義社会で利益を追求するあまり感情を無くして働かなくてはならない状況にある組織（オレンジ組織）からの脱却を図るものですが、まさに格さんの考えと同じだと感じました。

格さんがおっしゃっていた需要の均一化が起きている現状は、自分でも好ましくないと感じます。自分の生活に置き換えてみると、今、自分は一人暮らしをしていて食べ物の選択を自分でしなければならないのですが、限られたいくつかの安価なチェーン店をローテーションで食べているのが現状です。家の台所はとて狭くほとんど使い物にならないため

料理をする気があまり起きません。それらのチェーン店は決して美味しくはないわけではなく、安く提供してくれるため助かってはいます。ただもう行き尽くしてしまったため、決まった味で、美味しいという気分も湧かず、“ただお腹を満たすためだけに機械的に食べている”感情がふと湧きます。気づけば自らが需要を均一化してしまっていて、良くないと感じます。そうではなく、食材を買い、自分で料理を作り（または素材から作っているお店に向き）、食材の違いと調理の方法により味が非均一的な食生活を送るのが、本来の人間らしい生活だと感じました。話が逸れてしまいましたが、タルマーリーさんの経営や考え方は経営学の観点を超えもはや生き方の観点でとても興味深いと感じました。



[智頭の方々との交流会]

2日目の夜の交流会では、智頭のたくさんの方々に集まっていただきました。智頭出身でずっと智頭に住まれている方だけでなく、地域コーディネーターとして、1年限定で智頭の農林高校で教員をされている方や関東から林業を学ぶために智頭に1人で移住し、現在農林高校に通っている学生など、智頭出身ではない方々のお話も伺うことができました。そこで、智頭の魅力は何かを伺ったところ、自然がいっぱいで日本の原風景が残されている、家賃や物価が安い、知り合いではない人とも挨拶をするという温かい雰囲気、地元のコミュニティーなどの意見が挙がりました。また一方で、ずっと智頭にいてよくわからないから逆に初めて智頭に来た私達がどう感じるかを教えて欲しいという声もありました。私を感じた智頭の魅力は、地元の方々がとても仲が良いところ、智頭を盛り上げようと皆で一丸となって取り組んでいるところ、自然がいっぱいで日本の昔ながらの風景が残されているところ、人が少ないところだと感じました。これらは、都会にいたら感じられないことです。人がいっぱい都会に疲れてしまった人や自然が好きな人にぴったりの場所だと思いました。そして、住民の人々が自発的に積極的に町おこしに取り組んでいるのはとても素晴らしいことだと思いました。町おこしは内部からのアプローチに加え、外部からのサポートがあるとより効果的だと思うので、私たち智頭盛り上げ隊のように、智頭に移住するまでいなくても智頭以外の場所からの協力や応援も大切だと感じました。

このような地元の方々との交流はとても楽しく、地域コミュニティが強固な智頭だけか

からこそできることであると思いました。なので、留学生交流プロジェクトとのコラボレーション企画でも、是非留学生にも智頭の方々と交流してもらって、この雰囲気味わってほしいと思いました。また、自分たちで食料を調達して、それらを調理して、一緒に食べるというのはとてもよかったので、コラボ企画の際もやりたいと思います。そして、農業体験というのも留学生にとって魅力的であると思うので、可能であれば智頭の野菜を収穫して、それらの新鮮野菜を交流会の場で食べられたらさらに良いと思いました。あと、交流会の場でタルマーリーさんの天然酵母ビールや智頭特産の地酒を飲むというのも、智頭ならではのすごく良いと思ったので、コラボ企画でも準備できるよう計画したいと思います。



[森林セラピー]

3日目の午前中、ガイド3人の方に案内していただき、森林セラピーを体験しました。智頭は土地の約9割が森林ということで、周りを見渡すと必ずと言っていいほど緑が見えるくらい沢山の自然に囲まれていて、普通に生活しているだけで自然を感じられますが、実際に森に入ってみると、自然をもっと間近で感じられて、とてもリラックスできる空間でした。静かでありながら小鳥のさえずりや小川の流れる音などの自然の音が聞こえてきて、空気がとても澄んでいる、そんな空間です。普段、都会で生活している人はなかなか味わえない体験なので、都会の暮らしに疲れた人には是非体験してもらいたいと思いました。

そして、今回のコースはかなりの急斜面な山道を歩くこともあったので、かなり良い運動になりました。なので、あまり真夏に体験をするのはかなり暑いので厳しいのではないかと思います。季節や天候によって状況や客足が変わってくる自然体験ビジネスの難しさを感じました。



全体を通しての感想

[柴崎智子]

智頭は、きれいな水と景色と、人に会いに行く町だと思いました。穏やかでゆったりとした雰囲気は、街の喧騒に疲れた心と体を癒してくれました。国内では地方移住や働き方の見直し、海外では健康増進のための旅行に注目が集まる中で、智頭は重要な役割を果たす町の一つなのではないかと思いました。今後の民泊本番に向けて、私たちが知った智頭の魅力を最大限伝えることができるように活動していきます。

今回、森林セラピーや智頭宿などの観光だけでなく、タルマーリーさんや地元の方にも貴重なお話をさせていただき、本当に勉強になりました。ただ、自身の反省点なのですが、交流会の際、もっと質問をするべきだったと思っています。訪問前に、もっと具体的に聞きたいことを考えておくべきでした。さらに、智頭の方々につながる事が今回の大切な目的の一つだったのにも関わらず、名刺を忘れる(柴崎のみ)という大失態をおかしてしまいました。事前準備が不十分でした。今後はもっとじっくり考えて、高い集中力で活動します。

改めて、今回の訪問のために集まってくださった智頭の方々、交流会での調理や車で連れて行ってくださったともこさん、本当にありがとうございました。

[國谷尚史]

今回の旅はまずとても楽しかったし、その上で更に多くのことを学び、色々な人と意見交換をすることもできて、とても刺激的でした。今までの自分ではまず考えもしなかっただろうことを見聞きして、とても影響を受け、本当に自分を変える出来事になったと感じます。これから本番の留学生を交えた旅行も企画していく上で、今回の視察で学んだこと、感じたことをフルに使って企画を練っていきたいと感じます。

また、今回の旅では本当に多くの方々にお世話になりました。その都度感じたことは、智

頭の方たちはまさに”おせっかい”だと言うことです（もちろん良い意味で、です）。自分たちが質問をするたびに丁寧に答えてくださりとても嬉しかったです。智頭が元々宿場町で外部の人間を迎える土壌ができていたこと、そして田舎特有の、忙しくない、ゆったりとした雰囲気があるからそうさせてくれるのではないかと考えます。

朋子さんには車で智頭を案内して頂き、周三江さんには私たちを迎え入れてくださりこの企画に至るまでの様々な点での補助をして頂き、本当にありがとうございます。智頭を自分の周りの人にどんどんシェアして貢献できたら、と思います。本当に、楽しく学びになるものとなり、充実した3日間でした。

[一ツ谷真由]

今まではなんとなくでしか智頭の魅力がわかっていませんでしたが、今回の訪問で、実際に自分の目で見て、体で感じて、智頭の魅力をもっと深く知ることができました。私を感じた智頭の魅力については、[地元の方々との交流]の部分で詳しく書きましたが、これらの魅力が揃っている地域は日本でもなかなか珍しいのではないかと思います。鳥取というと、多くの方が砂丘というイメージしか持っていないのが現状だと思います。しかし、鳥取には様々な地域があり、それぞれの特徴があり、砂丘以外にもたくさんの魅力があります。これらの魅力があまり知られていないのはすごくもったいないことだと思います。なので、私達はその鳥取の中の智頭という地域のみになりますが、鳥取のまだあまり知られていない隠された魅力をもっと多くの人に知ってもらうにはどうしたらいいか、今回の経験を踏まえてよく考え、今後の活動に取り組んでいきたいと思っています。